

令和6年(2024年)2月10日(土)14時~16時
放送大学東京文京学習センター主催 公開講演会(配付資料)

担当:永原恵三

(放送大学東京文京学習センター客員教授/お茶の水女子大学名誉教授)

題目:「《アヴェ・マリア》の歴史を歌曲でたどるーグレゴリオ聖歌からシューベルト、そして現代カトリック聖歌までー」

1. グレゴリオ聖歌《アヴェ・マリア》の演奏と楽譜(3頁資料参照)

- ① 7世紀頃に起源をもつとされる *Ave Maria*
- ② 15, 16世紀に後半が付加された *Ave Maria*

2-1. 《アヴェ・マリア》: 祈りの言葉

アヴェ・マリアの祈りは、古い信徒の方々は「天使祝詞」として馴染んでおられると思います。日本語の祈りの言葉が少しずつ変更されてきていますが、元のラテン語の祈りの言葉は変わっていません。以下、ラテン語と現在の日本語を記します。

Ave María, grátia pléna;	アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、
Dóminus técum:	主はあなたと共におられます。
benedícta tu in muliéribus,	あなたは女のうちに祝せられ
et benedíctus frúctus véntris túi Iésus.	ご胎内の御子イエスも祝せられました。

Sáncta María, máter Déi,	神の母聖マリア
óra pro nóbis peccatóribus	私たち罪人のために
nunc et in hóra mórtis nóstrae.	今も死を迎える時もお祈りください。
Amen.	アーメン。

この祈りは二つの部分から成り立っています。前半4行はルカによる福音書第1章28節のお告げの天使による祝いの言葉が2行、続いての2行は、同じく42節の親族エリザベトからマリアへの祝いの言葉です。後半の *Sancta Maria* 以降の4行は、マリアへの祈願です。

2-2.

前半と後半は成立時期が異なっています。前半部分は6世紀頃から東方教会で歌われていたようで、西方教会では、7世紀、神のお告げの祭日、待降節第4週の水曜日、待降節第4主日のミサ中の奉納唱として記されている(鈴木忠一『カトリック大事典第1巻』:32)という記録が残っているようです。後半部の祈願の部分については、野村良雄、土屋吉正両氏によれば、1440年ごろシエナのフランシスコ会士、聖ベルナルディヌスによって加えら

れた（野村；土屋 1981『音楽大事典1』：6）、とされます。公式には1568年教皇ピウス5世の聖務日課書改訂で最終決定されました（鈴木忠一 同上）。

2-3.

（補）典礼暦（教会暦）キリスト教で用いられている暦。（本稿ではカトリック教会）

11月下旬の待降節に始まり、12月25日の降誕祭、2月中旬からの四旬節、そして3月下旬から4月中旬に毎年移動する聖週間と復活祭を中心として11月下旬の「王であるキリスト」の週で終わる。毎年、待降節第四主日は、天使ガブリエルによる受胎告知の日であり、ルカ書が読まれる。

2-4.

現在の私たちに馴染みの深いアヴェ・マリアの旋律が16世紀に確定されたものとする、かなり新しいこととなります。また、前半部だけの古い旋律は、メリスマ的（一つの音節を多数の音で長く伸ばして歌う）で、天使とエリザベトのお祝いの言葉を、豊かな旋律で彩っていると言えましょう。それに対して、新しい方の旋律は、まったく対照的にシラビック（一音節に一音符が対応）で、言葉をはっきりさせて歌うようになっています。どちらかといえは賛歌のスタイルを取っています。

アヴェ・マリアの歌は17世紀以降のヨーロッパの作曲家たちがしばしば作曲しています。なかでもスペインの作曲家 T.L. ビクトリアのアヴェ・マリアは、まさに公的に決定されてそれほど間をおかずに書かれた曲となり、そのグレゴリオ聖歌の旋律を中心にした4声の曲となって、堂々とした音楽になっています。

3. 19世紀と20世紀に作曲（編曲）された *Ave Maria* の一部（三大アヴェ・マリア？）

1) シューベルトのアヴェ・マリア：ウォルター・スコットの『湖の麗人』という英語の詩のドイツ語訳に作曲した曲です。

2) グノーのアヴェ・マリア：J.S.バッハの〈平均律クラヴィーア曲集第1巻〉の前奏曲ハ長調の上に旋律を付加した曲です。

3) アルカデルトのアヴェ・マリア：ジャック・アルカデルト(1504/05-1568)（フランス、フランドル）の世俗曲の旋律を19世紀の和声で、ピエール＝ルイ＝フィリップ・ディーチェ(1842)が編曲。

4) カッチーニのアヴェ・マリア：カッチーニ(1545/52-1618)（フィレンツェ、ヴェネツィア）は *Le Nuove Musiche*(1601)で有名。ソ連時代のウクライナの作曲家ウラディーミル・ヴァヴィロフ(1925-73)がカッチーニの名前を借りて書いたものとされる。カッチーニとは無関係。

4. 現代のカトリック聖歌より

第二バチカン公会議（1962-65）以降、世界のカトリック教会では現地語と現地の音楽によって、聖歌が作曲されて歌われています。日本では、『典礼聖歌』や『カトリック典礼聖歌集』などに掲載された、高田三郎氏や新垣壬敏氏によって作曲されたアヴェ・マリアの歌を歌います。さらに、聖母賛歌を広く捉えると、従来からある『カトリック聖歌集』には聖母に祈るたくさんの聖歌があります。それらはヨーロッパで長く歌い継がれた曲に、日本語の歌詞がつけられたものです。

本日は、新垣壬敏作曲《マリアへの祈り》『カトリック典礼聖歌集 326』を歌います。

5. 最新の研究紹介

1) 山本成生 2023 「〈アヴェ・マリア〉の形成と展開 二 ―グレゴリオ聖歌の初期写本群における奉納唱をめぐって―」、『上智史学』第 68 号、21-42.

2022 「〈アヴェ・マリア〉の形成と展開 一 ―東方教会の典礼におけるその濫觴―」、『上智史学』第 67 号、35-49.

2) 時津ハイツ；大津磨由美

2024 『日本カトリック教会の音楽 明治期から昭和初期まで・宣教師らの軌跡とともに』、日本キリスト教団出版局.

6. 楽譜資料

グレゴリオ聖歌《アヴェ・マリア》

①

Lc. 1, 28, 42

OF. VIII



A ve * Ma-ri- a,
grá- ti- a ple- na, Dó-
mi- nus te- cum : be- ne- dí- cta tu in
mu- li- é- ri- bus, et bene- dí- ctus fru- ctus
ven- tris tu- i.

②

Ave Maria.

1.

A -ve Ma-ri- a, * grá-ti-a pléna, Dóminus técum,
 benedícta tu in mu-li- é-ribus, et benedíctus fráctus vén-
 tris tú- i, Jésus. Sáncta Ma-ri- a, Máter Dé- i, óra pro
 nó-bis pecca-tóribus, nunc et in hó-ra mórtis nóstrae. Amen.

7. シューベルト《アヴェ・マリア》：ウォルター・スコット『湖の麗人』より（1番と3番）
 （『湖の麗人』（岩波文庫 入江直祐訳 1936年／2019年を参考に、永原が現代語訳）

Ave Maria! Jungfrau mild,
 erhöere einer Jungfrau Flehen,
 aus diesem Felsen starr und wild
 soll mein Gebet zu dir hin wehen.
 Wir schlafen sicher bis zum Morgen,
 ob Menschen noch so grausam sind.
 O Jungfrau sieh der Jungfrau Sorgen,
 o Mutter, hör ein bittend Kind!
 Ave Maria!

アヴェ・マリア 優しきおとめよ、
 お聞きください 乙女の祈りを。
 荒れた野に 望みも絶えて
 ふし拝めば お救いくださいます。
 罵られ 追われている身をも
 お護りください 眠らせてください。
 子の願い事を 乙女の祈りを
 お聞きください 母よ おとめよ、
 アヴェ・マリア。

Ave Maria! Reine Magd!
 Der Erde und der Luft Dämonen,
 von deines Auges Huld verjagt,
 sie können hier nicht bei uns wohnen.
 Wir woll'n uns still dem Schicksal beugen,
 da uns dein heilger Trost anweht;
 der Jungfrau wolle hold dich neigen,
 dem Kind, das für den Vater fleht!
 Ave Maria!

アヴェ・マリア 清きおとめよ。
 輝く あなたの御前では
 この洞に 棲み籠っている
 物の怪も 逃げて失せることだろう。
 お導きを 下していただければ
 辛い世の 運命も耐え忍ぶことができます。
 父のために その子の祈る
 乙女の 願い事をお聞きください。
 アヴェ・マリア。